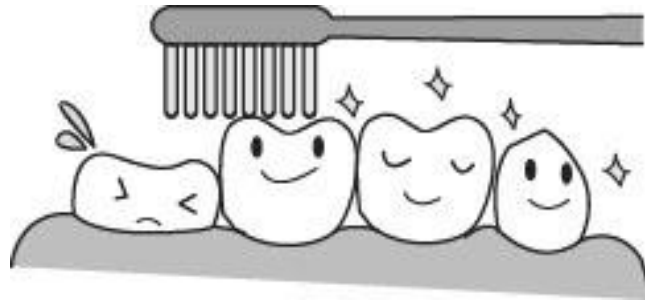
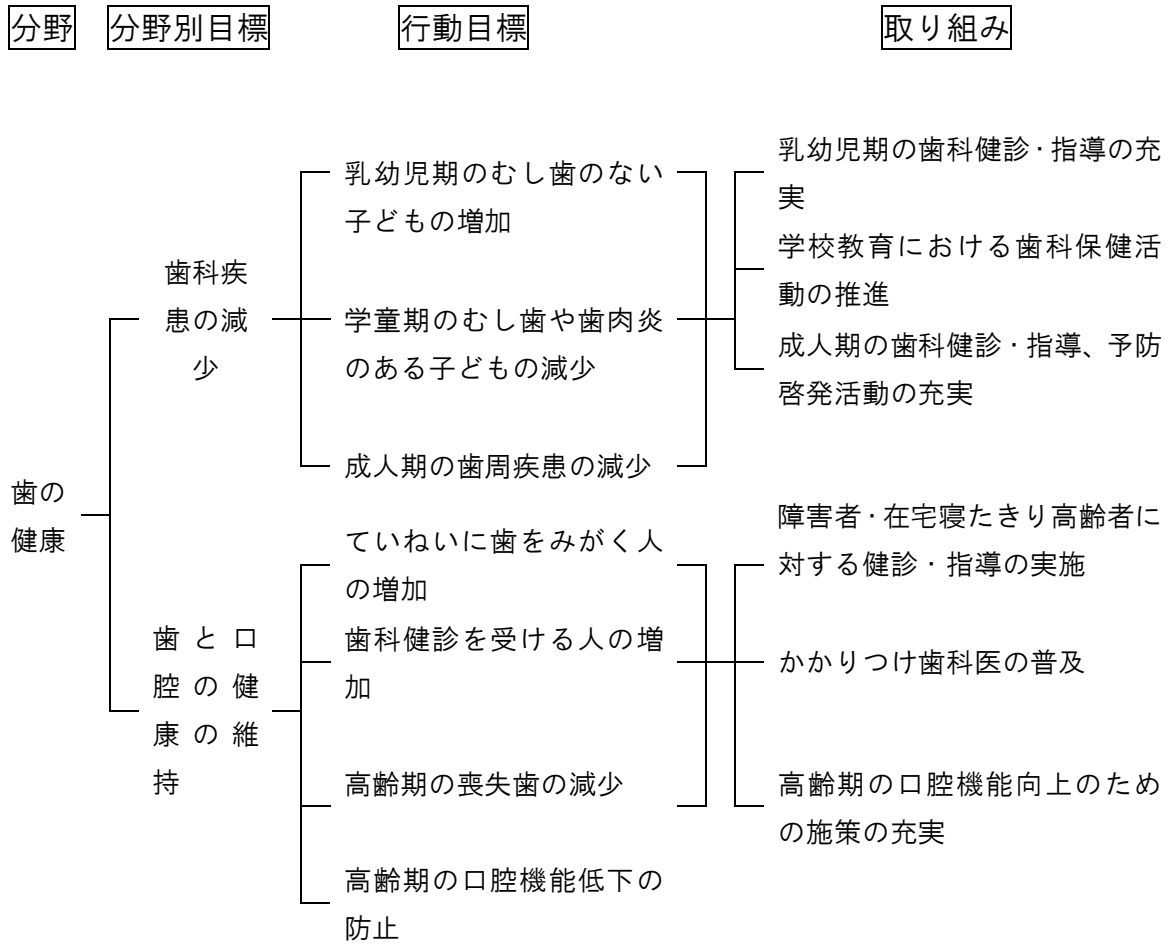


6 歯の健康

歯と口腔の健康を保つことは、豊かな食生活や社会生活を営み、健康で長生きをするために大変重要なことです。すべての年代にわたってむし歯と歯周疾患の予防に取り組み、健全な口腔機能の維持に努めます。



〔体系図〕



[分野別目標1] 歯科疾患の減少（重点）

[ポイント]

文京区は東京都と比較して、むし歯のない子どもが多く、前回調査と比べても3歳児でむし歯のない子供の割合は75.2%から82.8%に増え、12歳児の1人平均むし歯数も1.6歯から0.98歯と減少しています。しかし、12歳児の歯肉炎は23.9%、約4人に1人の割合で認められ、学童期から歯周疾患が始まっていることが推測されます。

また成人においては、今回の調査で歯や口で悩みのある人が7割近くを占めて、特に歯を失う主な原因である歯周疾患の症状を訴える人が多く見られます。

乳幼児期のむし歯や就学期の第1大臼歯のむし歯、学童期の歯肉炎の予防には、子どもの歯の健康に対する保護者の関心を高め、歯みがきなどの基本的な生活習慣を身に着けることが大切であり、歯科健診・指導等を通じて積極的に働きかけを行います。また、成人期においては、歯周疾患予防対策の充実を図っていきます。

[行動目標①]

乳幼児期のむし歯のない子どもの増加

3歳児のむし歯のない子どもの割合(区) 75.2%→82.8%→90%

第一大臼歯にむし歯のない子ども 増やす

[行動目標②]

学童期のむし歯や歯肉炎のある子どもの減少

12歳児の歯肉炎のある子どもの割合(区) 23.9%→17%

[行動目標③]

成人期の歯周疾患の減少

成人期の進行した歯周疾患の割合(CPI 3以上)

(区) 40歳 男性33.3% 女性24.0%→男性27% 女性19%

50歳 男性42.5% 女性36.6%→男性34% 女性29%

※第一大臼歯：6歳頃乳歯の奥に生えてくる永久歯。かむ力が一番強く、かみ合わせを決め、後に生えてくる永久歯の歯並びの基準となる大切な歯

<p>取り組み① 乳幼児期の歯科健診・指導の充実</p>
<p>保護者が子どもの歯の健康に関心を持ち、歯磨き・間食の与え方などの正しい生活習慣を子どもに身につけさせるための支援を行います。</p> <p>(保健サービスセンター、歯科医療機関、教育指導課、保育課)</p> <p>むし歯予防に効果的な3歳までと、第一大臼歯が生える6歳ごろを重点対象に、歯科健診・歯科保健指導・予防処置に加えて、正しい噛み方の啓発・指導を行います。</p> <p>(保健サービスセンター、歯科医療機関、保育課、教育指導課、学校、学校歯科医会)</p> <p>乳幼児の歯の健康に関心を持ち、子どもが良い生活習慣を身につけるように努めます。(区民)</p>
<p>取り組み② 学校教育における歯科保健活動の推進</p>
<p>歯の健康の大切さを学び、日ごろから歯と歯肉の状態を観察する習慣を身につけます。(区民)</p> <p>永久歯のむし歯と歯肉炎を予防するため、学校歯科医との連携を図り歯科保健教育を充実します。(教育指導課、学校、学校歯科医会)</p>
<p>取り組み③ 成人期の歯科健診・指導、予防啓発活動の充実</p>
<p>歯科保健相談や歯科健診を実施し、疾患の早期発見と予防に努めます。</p> <p>(保健予防課、保健サービスセンター、歯科医療機関)</p> <p>パンフレット、区報、ホームページなどで歯周病予防の知識の普及・啓発に努めます。(保健予防課、保健サービスセンター、歯科医師会)</p>

[分野別目標2] 歯と口腔の健康の維持

[ポイント]

平成13年度文京区世論調査では、歯や口に満足している者は、53.5%でしたが、今回の調査では、歯や口腔に悩みや気になることがある人は69.2%と増えています。一方でていねいに歯を磨くものは前回調査の22.5%から、42.2%と約2倍になっており、この1年間のうちに歯科健診を受けたものも43.7%と前回より増加しています。歯と口腔の状態について関心を持つ人が増えてきている様子がうかがえます。

生涯にわたって、歯と口腔の健康を維持するためには、身近な地域で正しい口腔保健の知識、情報を提供し、定期的な口腔ケアをしてくれるかかりつけ歯科医を持つことが大切です。

また、口腔内を清潔に保ち、咀嚼や嚥下など口腔の機能を維持することは、介護予防あるいは誤嚥性肺炎の予防に効果があります。今後は高齢期の口腔機能の維持・向上に関する知識の普及・啓発を積極的にすすめていきます。

- ※ [行動目標①]
ていねいに歯をみがく人の増加
22.5% (区) → 42.2% → 50%
- ※※ [行動目標②]
歯科健診を受ける人の増加
40歳～49歳 38.3% (区) → 46.2% → 60%
- [行動目標③]
高齢期の喪失歯の減少
60歳で自分の歯を24本以上持つ人の割合 → 65%
- [行動目標④]
高齢期の口腔機能低下の防止
高齢者の口腔機能向上教室参加者 → 増やす

※ ていねいに歯をみがく人：ほぼ毎日1回10分程度みがく人（平成13年）

毎日2回以上かつ補助器具を使って歯磨きをする人（平成18年）

※※ 平成14年は40歳

<p>取り組み① 障害者・在宅寝たきり高齢者に対する健診・指導の実施</p>
<p>かかりつけ歯科医として、歯科疾患の発症、重症化を予防するため、定期健診・指導を行います。 (歯科医療機関)</p> <p>身近な地域でかかりつけ歯科医を持つことができるように、適切な歯科保健情報を提供していきます。</p> <p>(保健予防課、保健サービスセンター、障害者福祉課、歯科医師会)</p>
<p>取り組み② かかりつけ歯科医の普及</p>
<p>気軽に相談が出来るかかりつけ歯科医をもち、歯の健康を自ら管理できるようにします。 (区民)</p> <p>母親学級、乳幼児健診、歯科保健相談、育児相談などの機会に、定期健診や専門的口腔ケアなどをしてくれるかかりつけ歯科医を持つことの必要性を伝えていきます。 (保健サービスセンター、子育て支援課)</p>
<p>取り組み③ 高齢期の口腔機能向上のための施策の充実</p>
<p>パンフレット、区報、ホームページなどで、口腔機能の低下を防止することが介護予防や誤嚥性肺炎の予防になることを広め、口腔機能向上教室等の充実を図ります。</p> <p>(保健予防課、保健サービスセンター、高齢者福祉課、福祉センター)</p>